



丹波市の未来をえがく

Vol 1

～丹波市未来都市創造審議会 通信～



会議の詳細は
丹波市ホームページ

【第1号】2018年5月23日発行

丹波市未来都市創造審議会 とは？

人口減少・少子高齢化が進展するなか

これからの環境の変化と約20年後の将来の姿を見据え

将来のまちの姿、暮らし方を明確に示す

市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」の策定を行います。

審議会の委員

審議会の会長・副会長は、委員の互選により、下記の委員にご着任いただきました。（以下敬称略）

- 会長 角野 幸博
（関西学院大学 総合政策学部 都市政策学科教授）
- 副会長：大野 亮祐
（丹波市自治会会長 柏原地域代表）

ご就任いただいた委員は以下の17名です。

識見を有する者（3名）

岡 絵理子、角野 幸博、北川 博巳

公募による市民（3名）

荻野 美恵子、白滝 里香、本庄 健吾

公共的団体の代表者（6名）

大野 亮祐、酒井 浩二、大谷 吉春、吉住 孝信、
田中 延重、坂谷 高義

各種団体等から選出された者（4名）

足立 はるみ、足立 由夏、大木 玲子、十倉 貴

関係行政機関の職員（1名）

福本 豊



第1回丹波市未来都市創造審議会の様子

丹波市未来都市創造審議会



日時：平成30年4月20日（金）午後2時～
場所：氷上住民センター 大会議室

■ 審議会のスケジュール

審議会等で意見交換を行いながら、**今年度「まちづくりビジョン」**をとりまとめます。

※ 審議の議論を深めるために、必要に応じて「**部会**」を開催します。



■ 将来のまちの姿・暮らし方についての主な意見

買い物、病院、行政サービスなど**都市機能が集積された地域**に行き、**全ての用事を済ませる**ことができれば、高齢になっても周辺地域に住み続けられるのでは。

希望の持てる計画とするため、**住み慣れたところの良さを活かしながら生活を続けられる仕組み**を考えるべきでは。

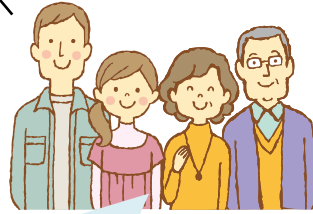
高齢者や子どもに**情報を受け取る環境**を整えることが必要では。

周辺との交流等を考えると、過渡的には**各地域に拠点**のようなものが必要では。

委員の皆さまからのご意見の一部をご紹介します

市内を**円滑に移動できる仕組み**がないと、若い人が帰ってこようという気にならないのでは。

20年後は人口が減り税収も減ると思う。今後は**駅の周りに集積しそこに人口を集める**しかないのでは。



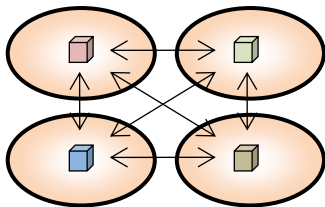
一人ひとりが**自分の居場所を見つける**ことができている将来の姿があればよいのでは。

自動運転など視野に入れ、**行きたいところに行ける公共交通体系の構築**が必要では。

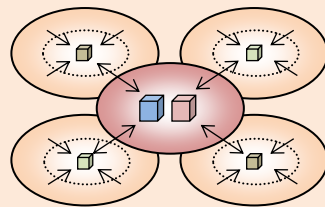
観光客にとって、**鉄道を使って訪れることができるまち**が一番訪れやすいまちであり、インフラの充実もこれからの課題では。

急激な人口減少により、**約20年後には自治会や地域がなくなってしまうかもしれないという危機感**を感じており、**真剣な議論**が必要では。

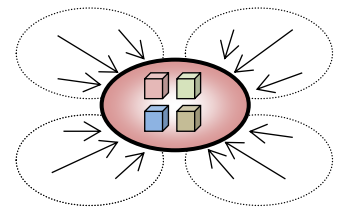
■ 約20年後のまちの姿・暮らし方の方向性



A 住みなれた地域に住み続ける + 市内各地に都市機能は分散



B 住みなれた地域に住み続ける + 中心部に都市機能を一定集積



C 都市機能が集積した中心部に集まって住む

上記3パターンの将来のまちの形のイメージをもとに、約20年後のまちの姿と暮らし方について議論が行われ、

B: 「住みなれた地域に住み続ける+中心部に都市機能を一定集積」という考え方の意見が多く出されました。

第2回の審議会では、**Bの方向性を軸**に、実現に向けた課題や、効率的な都市機能の配置等について議論します。

次回（第2回審議会）の開催予定

- 日時 平成30年6月21日（木）午後2時～
- 場所 ハートフルかすが 大会議室（丹波市春日町黒井 1500番地）
- その他 会議の傍聴は可能です。

